



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2014-2015年度 R | 会長 ゲイリー C.K. ホアン



第2590地区 ガバナー
大野 清一

- 会 長 山田 正憲
- 会長エレクト 江森 国一
- 副 会 長 天野 公史
- 副 会 長 鴻 義久
- 幹 事 植田 清司
- 副 幹 事 朝日 達夫
- 会 計 渡 邊 淳
- 副 会 計 白井 康夫
- S A A 小 山 市 康
- 副 S A A 長 井 章
- 副 S A A 青 柳 紀
- クラブ会報 竹 山 洋



写真提供 小池将夫会員

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555

例会日 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)

例会場 ホテルキャメロットジャパン

創立記念日 昭和 51 年 5 月 29 日

URL <http://www.kanagawahigashi.com/>

E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2014-2015年度 第12週報 No. 1853 2014年(平成26年) 9月26日 第1853回例会記録 10月3日発行

司 会 朝日 達夫 副幹事

誕生日祝 田口健太郎 会員 (9月29日)

点 鐘 山田 正憲 会長

斉 唱 「手に手つないで」

四つのテスト 角田 伯雄 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 かしわ 哲 様 (ゲストスピーカー)

ビジター紹介

神奈川県 R.C	金野 克佐 様
神奈川県 R.C	久保田耕二 様
横浜都筑 R.C	小池 裕 様
横浜都筑 R.C	星野 莉莉 様
横浜ベイ R.C	山本 悦子 様



本日〈10月3日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「君が代」「奉仕の理想」
- ◆ 献 立 シーフードのソテー アメリケーヌソース
- ◆ 卓 話 ガバナー公式訪問

第2590地区 2014-15年度 ガバナー 大野 清一 様

<< 本日の B G M >>

「弦楽セレナーデ 木長調 作品22 外」

アントニン・ドヴォルザーク

会長報告

山田 正憲 会長

- ・ R I 事務局より、角田伯雄会員と矢野修二会員にMPHFの認証ピン、白鳥厚夫会員にPHFの認証状が届いておりますので贈呈します。



田口健太郎君 誕生祝い、ありがとうございます。

山田正憲君 かしわ様、本日はお忙しい中、本日の卓話よろしくお祈りいたします。

山本 登君 秋の実感がまだありません。

伊東英紀君 かしわ様、本日卓話楽しみにしています。

江森国一君 ①今週はギックリ腰でへろへろです。②月山さん、ごめんなさい。とりあえず謝っておきます。理由は聞かないで下さい。

矢野修二君 ①かしわ様、本日の卓話、よろしくお祈り致します。横浜みらいミュージックコロラボ2014の成功を祈ってます。②山本悦子様、ようこそいらっしゃいました。

横溝 亘君 本日、所用にて早退させていただきます。

茂木知子さん ～ワルダクミ～直前会長・幹事慰労会の帰り、赤堀会員と岡部会員に駅の方角を尋ねました。お二人は「自分たちも帰るつもりなので一緒に行きましょう」と言って下さいました。ところが二人が歩きながらこそそと相談をし始めました。「金曜日の夜だし・・・」とか「T社長は明日休みだし・・・」という声が聞こえてきました。ネオンが見える角に来ると二人は、「駅はあっちですから」とそっけなく言って、ネオンの光に吸い込まれて行きました。

白鳥厚夫君 かしわ様、本日の卓話、楽しみにしています。

佐藤勝彦君 かしわ様、本日の卓話、楽しみにしています。よろしくお祈り致します。

長井 章君 かしわ様、卓話、よろしくお祈りいたします。

9月26日	15件	24,500円
本年度累計		496,580円

幹事報告

植田 清司 幹事

- ・ 10月よりロータリーレートが102円⇒106円に変更になります。
- ・ 次週例会はガバナーの公式訪問となります。

【例会変更のお知らせ】

* 横浜鶴見西ロータリークラブ

平成26年10月15日(水)⇒14日(火) 移動例会



出席報告

西山 潔 出席委員長

会員総数	55名	(33+22)名	
出席会員数	41名	(27+14)名	
出席率	87.23%		
ゲスト	1名	ビジター	5名
前回補正後	91.11%	前々回補正後	96.00%

卓話

「障がい者のライブパフォーマンス推進」

NPO法人ハイテンション 代表 かしわ 哲 様
(紹介者 白鳥 厚夫 会員)



スマイルボックス

長井 章 副SAA

神奈川R.C 金野克佐様 本日もお世話になります。

神奈川R.C 久保田耕二様 本日は、地区ロータリーアクト委員会のPRでお伺い致しました。よろしくお祈り致します。

横浜都筑R.C 小池裕様・星野莉莉様 本日、横浜都筑R.Cの20周年記念式典のご案内の為に参りました。よろしくお祈り致します。

横浜ベイR.C 山本悦子様 3つのR.Cがコラボレーション。コンサートに協力させて頂き、嬉しく思っています。かしわ様の卓話を楽しみに参加させていただきます。

- 幼児が世界と初めて出会う時の感動を共有することで大人も「もう一度世界と出会う事が出来る」
- 幼子や知的障がいのある人たちの感性により、私たち一般の大人は、忘れてしまった感動を取り戻す。
- 知的障がいのある人たちは、あるがままの、とても自然で大らかな感受性をもっている。
- わたしたち一般の方が、かえって不自然な不自由な感受性に縛られている。
- 障がいのある人たちのライブパフォーマンスは、新しい社会参加の道であると同時に、共生社会実現の新たな気づきとなる。

ロータリーニュース

ちびっこライターの作文が世界を駆ける

ここはジャマイカの小学校。11歳のジョーダン君が、ある子犬の話を書き、クラスで発表しています。その子犬は、配水管に落ちて衰弱していたとき、ジョーダン君の家族に助けられました。その後、浜辺で遊べるほど元気になり、やがて大きな犬に・・・。

この話は、7～11歳の生徒たちによる児童作文コンテストに寄せられた話です。コンテストは、カリブ地域のロータリーEクラブ*が中心となり、周辺の10カ国が協力して主催されました。

* ロータリーEクラブ：従来型のクラブと同じように会合を開き、奉仕プロジェクトを実施し、会員同士の交流を楽しみます。大きな違いとして、会員がそれぞれ都合のよい曜日や時間にインターネットで参加します。

子どもたちの作文が世界に

児童作文コンテストのアイデアを思いついたロータリー会員は、英国のロータリークラブが主催した青少年プログラムからヒントを得ました。コンテスト規約や公募方法を学び、これならインターネットで活動するEクラブにもできると思ったそうです。その後、地元クラブの連携を駆使して、多くの小学校から作品を募りました。

2013年の第1回コンテストでは200の応募があり、2014年には300名のちびっこライターが参加。協力クラブごとに3つの地域賞を選び、主催者のEクラブが10の優秀作品を選びました。参加者には図書券をプレゼントし、さらなる読書を応援します。

優秀作品は、“The Butterfly StoryBook”という一冊の本となって出版されました。また、ハイチのボランティア学生によってフランス語とクレオール語に翻訳され、近くスペイン語にも翻訳される予定です。

主催者のEクラブは、子どもたちの読み書き支援に役立ててもらおうと、この本をジャマイカの識字協会に寄贈。識字協会は、これのお返しにと、カリブ諸国でのコンテスト普及を応援することに同意しました。また、バージン諸島のロータリークラブが地元での識字支援に活用するために500部を購入したほか、カナダ、エチオピア、ハイチ、インド、英国の小学校への寄贈用にさらに多くを購入

しました。

この本は、Amazon.comで購入できます。収益は読み書き支援の活動に充てられ、図書館への寄贈にも最適です。

低所得者地域の子どもを本の世界へ

ロータリーは、国際読書協会（IRA、2002年よりロータリーと提携）と協力して識字プロジェクト賞への応募を募りました。

今年7月、上記の児童作文コンテストと、米国のロータリークラブが実施した移動図書館プロジェクトが最優秀プロジェクトに選ばれ、スポンサーであるピアソン財団から支援金2,500ドルが贈られました。

移動図書館プロジェクトでは、ロータリークラブとIRAに加え、ロータリーアクティブクラブやEllensburg教育財団も本の収集・選別に協力しました。また、低所得者地域で本の貸し出しを行うために、当初はトラックをレンタルしていましたが、今年、協力者からの支援を受け、専用のトラックを購入できました。

低所得者地域では、公共サービスも不足しがちになり、ほとんど自分の本を持っていない子どもも。本を受け取った子どもたちの顔には笑顔があふれると、ロータリー会員は話します。

ボランティアの多くは教育関係者で、読み聞かせを行うことで子どものサポートを行っています。時には、年長の子が、弟や妹に本を読んであげることもあるそうです。



ロータリー・ニュース

ガーナの村にきれいな水を

「5歳未満の子供たちの5人に一人が汚染された水を飲んで死亡している」。これが世界の現実です。しかも飲み水を汲みに行くために、毎年世界で約400億時間が費やされ、その作業は主に女性と子供たちが担っています。

アフリカのガーナでは、人口の20パーセントに当たる約500万人が、汚染された水を使っていると推定され、その結果、多くの人がさまざまな病気の危険にさらされています。

ロータリー会員、マーティン・ハタラさん（米国アラバマ州、ボアズ・ロータリークラブ）は、2010年に初めてガーナを訪れ、孤児院でボランティア活動に参加した時、地域の人びとがきれいな水を求めて苦勞している様子を目の当たりにしました。「場合によっては、11キロも歩いて水を汲みに行かなければならなかった」と振り返ります。

ハタラさんのこの経験について知り、ボアズ・ロータリークラブと、同じ州にあるアラバスターペラム・ロータリークラブの会員が立ち上がりました。ロータリー会員たちはガーナのボルタ地域の村、アフラオで、飲み水用の井戸を掘り、村人が長い時間をかけずに、近くできれいな水を汲めるようにしたのです。これで、村の母親と子供たちが水汲みに苦勞する必要がなくなりました。

ハタラさんはその後、地元の人に別の地域に案内してもらいました。アフラオと違い、その地域には地表に水源がありました。ロータリー会員たちは、その水源から9つの村まで送水管を敷き、市場、寄宿舎、学校、養鶏場など主要な施設で水が使えるようにしました。ハタラさんはその際、水道と下水管理の専門家、アラバスターペラム・クラブのクレイグ・ソレンセンさんの力を借り、地元の人びとにもこのプロジェクトの進行状態を常に知らせ、実際に参加してもらいました。

当初6つの村まで敷くはずだった送水管を9つの村に延長できたのも、地域のリーダーの紹介で、地元の労働力を確保できたからです。このプロジェクトは去る3月に完了しました。

このプロジェクトに参加したクラブの会員たちは、ほかの地域でも水源を探し、もっと多くの人びとの日常を改善したいと考えています。

ソレンセンさんはこう語ります。

「地域の人びとと話合っているうちに、出水量が多い井戸から送水管を敷き、それを延長することで、最初の2つのプロジェクトと同じぐらいの資金で、遠隔地まで水を送ることができることがわかったんです。村人の生活が改善されていくのを見るのはとても満足感があります。きれいな水が利用できるようになり、これから数世代にわたって、人びとの保健、教育、収入の面でもとてもいい影響があると思います」



ロータリー・ニュース

ポリオのないインド

ここはインドのムラダーバードにある小さな村。この村の狭い通りを懐かしそうに歩くのはフォトジャーナリストで元平和フェローのアリソン・クウェッセルさんです。4年前にこの村を訪れたとき、サミール君とその家族に出会いました。そのときサミール君は2歳、ポリオに感染した直後でした。

ある家の前までやってくると、「サミール！サミール！」と叫ぶ年配の女性の声。もしやと思い、声のする方へ歩いていくクウェッ

セルさん。そこでは、6人の子どもたちが乾いた土の上を走り回って遊んでいました。遠くに、ちょっと足をひきずって歩いている男の子がいるのに気づきました。子どもたちの輪に近づいていくと、全員が足を止め、半分がその男の子の周りに集まります。その子の目を見て、クウェッセルさんはそれがサミール君であると分かりました。もう6歳になったサミール君は、理学療法の力を借りて、村のほかの子どもたちと一緒に遊べるようになっていました。

サミール君は、インドで最後にポリオに感染した子どもたちの一人です。2014年3月、WHOは東南アジア地域を「ポリオフリー」（ポリオのない状態）と認定しました。1月の時点で、インドはポリオ無発生3周年を祝っており、このポリオフリー認定は、インドにおける長年のポリオとの闘いが成功を収めたことを物語ったものでした。

インドにおける実に36年にもわたるポリオとの闘いで、何百万人ものボランティアが山を越え、砂漠をわたり、この広大な地で、すべての子どもたちに予防接種を行うために奔走しました。インドはそれまで、世界のほかのどの国よりもポリオの発生数が多い国でした。今回のポリオフリー認定は、世界人口の80%がこの恐ろしい病の恐怖から解放されたことを意味します。

サミール君の母、ファミダさんは今、7人の子の母親ですが、今年学校に上がるサミール君を心配しています。通学のために、交通量の多い道路を渡ったりしなければならず、早く走ろうとすると転んでしまうことがあるからです。けれど、サミール君はそんなときでもすぐに立ち上がります。サミール君の主治医は、「（最終的にポリオに感染してしまったが）予防接種を受けていたことで、ある程度の免疫ができていたこともあり、サミール君の症状はあまり重くはない」と話します。ファミダさんは、将来は医者になりたいというサミール君の将来に希望をもっています。

クウェッセルさんはこう話します。

「インドで行われてきた予防接種活動のおかげで、子どもがいつかこの病気にかかるのではと母親たちが心配をする必要がなくなりました」



ザ ロータリアン誌

次回《10月10日》の卓話予定
テーマ 「孝道山の社会福祉活動」

孝道教団 統理 岡野 正純 様
(紹介者 佐藤 勝彦 会員)